

<イベントについて>
 * 講堂で行うイベントは、基本的に定員200名(先着順)です。
 * 申込の表記がないイベントは申込不要です。
 * 有料 (材料費や保険料など)の表記がないイベントは無料です。
 * 申込のイベントは、原則として開催日の一ヶ月前から(一ヶ月前が休館日の場合は翌開館日から)電話もしくは受付カウンターで申込を受け付けます。
 定員に達したら受付を終了します。イベントの日時や内容に変更が出た場合、その都度ホームページなどでお知らせします。
 * 「みんな」は、博物館の活動を応援して下さる皆さんと一緒に、協力してつくりあげる「みんなで作るイベント」を指します。

企画展「Go! Go! 5世紀 一東北地方中・南部の古墳文化」関連イベント

展示解説会 企画展示室 有料 企画展観覧料
 7/2(日)13:30~14:30 企画展示室 平澤慎(当館学芸員)

企画展「仕事の仕事をしている仕事—福島のものづくりと民藝—」関連イベント

講演会「作るのではなく、生まれる」 定員40名
 7/22(土)13:30~15:00 なんだべや 鞍田崇さん(哲学者/明治大学准教授)
 ※民藝とは何か? ものづくりとは何か?

ワークショップ「ほうきをつくろう」 要申込 各回定員12名
 ①9/9(土)13:30~16:00、②9/10(日)9:30~12:00 なんだべや 宮原克人さん(筑波大学准教授)
 ※手仕事の時間を楽しもう

展示解説会 各回13:30~14:00 企画展示室 有料 企画展観覧料
 7/15(土)、8/12(土)、8/27(日)、9/23(土・祝) 当館学芸員

キッズ・ファミリー向けイベント

博物館でもよみかかせ 定員30名(先着順)
 7/8(土)、8/12(土)、9/9(土)10:30~11:30 なんだべや
 ※7、8月は会津大学短期大学部のみならず、9月は会津美里町のマザーグースのみならずと親子で楽しめるお話をけんぱくならではの体験を用意してお待ちしています。

鉱物標本をつくらう 要申込 定員20名 有料 500円
 8/6(日)13:30~15:00 実習室 博物館友の会化石鉱物探検隊のみならず
 ※あなただけの鉱物コレクションを作りましょう!

こどもミニミニはくぶつかん
 8/12(土)10:30~15:30 なんだべや 会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科のみならず・当館学芸員
 ※わくわくがたかさん! ワークショップや読み聞かせなど、大人も子どもも楽しめるメニューをご用意しています。

親子で探検! 博物館のウラ側 要申込 定員15名(小学生を含む親子)
 8/20(日)13:30~14:30 実習室集合
 ※けんぱくのウラ側(バックヤード)をお見せします!

見たい!知りたいたい!楽しみたい! 多彩なイベント

保存科学 講座 古代の紙について学ぼう! 定員18名
 7/9(日)13:30~15:00 実習室 杉崎佐保恵(当館学芸員)
 ※製紙技術は古代中国から伝わります。現存する国内最古級の古代の紙とは...?

自然史 講座 恐竜の科学
 7/17(月・祝)13:30~14:30 講堂 吉田純輝(当館学芸員)
 ※恐竜研究の最新情報をのぞいてみよう!

考古学 講座 縄文土器をつくらう 要申込 定員20名 有料 450円
 7/29(土)・30(日)10:00~15:00 実習室 高橋満・山本俊(当館学芸員)
 申込は、7/29・30の両日および10/8「縄文土器の野焼き」に参加可能な方に限ります。
 ※粘土に触れ、土器を作り、縄文の技を学ぼう!

美術 講座 美術放談第2回「会津の絵画」
 8/5(土)13:30~15:00 講堂 小林めぐみ、塚本麻衣子(当館学芸員)、川延安直(当館専門員)
 ※室町時代の僧侶・雪村をはじめ会津を訪れた絵師・作家たち。彼らが生んだ「会津の絵画」の魅力とは。

みんな 会津磐梯山・市民盆踊り
 8/15(火)19:00~20:30 前庭 会津磐梯山盆踊り保存会のみならず
 ※会津磐梯山のリズムに乗って、お盆の供養として踊られてきた盆踊りを一緒に。

みんな ナイトミュージアム 要申込 定員80名
 8/19(土)17:30~18:30 総合展示室
 ※いつもと違う真つ暗な展示室を探索しよう!

民俗ミニ映画会 記録映像で見るふくしまの暮らし
 各回10:30~12:00(終了時間は映像の長さにより異なります)
 ①8/27(日)、②9/24(日) 講堂 民俗分野学芸員
 ※企画展「仕事の仕事をしている仕事」にあわせて、県内のものづくりの記録映像を上映します。

災害分科 講座 伝える~楽しいそなえ 定員20名
 9/1(金)10:00~11:00 なんだべや 鈴木弥生・筑波匡介(当館学芸員)
 ※自分にながでできるか考えよう! 災害に使える工作に挑戦してみよう。

特別 講座 詩人のいる博物館 ①
 9/2(土)13:30~15:30 講堂 和合亮一さん(詩人)・初沢 亜利さん(写真家)
 ※表現者は社会の変化に直面したとき、何を思い作品に残すのか。和合さんと初沢さんが作品にこめた思いや制作の背景をお話します。

福島県立博物館
 Fukushima Museum
 開館時間9:30~17:00(最終入館は16:30まで)
 お問い合わせ TEL0242-28-6000 FAX0242-28-5986
 〒965-0807 会津若松市城東町1-25
 HP https://general-museum.fcs.ed.jp e-mail general-museum@fcs.ed.jp
 なじよなVol.16 7~9月号 2023年6月27日発行 発行/福島県立博物館

【7~9月のポイント展】

- ポイント展は、収蔵品を中心に、特別に公開する資料などを1点から紹介する小規模展です。
- 猪苗代城絵図 ~8/21
 ※江戸時代の会津にあった、もうひとつの城の姿!
- ニワトリのなかの恐竜 7/7~9/6
 ※チキンの体に眠るティラノサウルスの遺伝子? 恐竜研究のいま
- 慧日寺の宝物 7/22~9/24
 ※慧日寺ってどんなお寺? 伝来の宝物からご紹介。
- 都々古別神社の宝物 7/22~9/24
 ※榎倉町にある古社・八槻都々古別神社。同社が所蔵する国指定重要文化財「銅鉢」を期間限定公開。
- 軍事郵便が繋いだ絆 8/5~10/13
 ※兵士が家族に伝えたかった想いとは。
- みんなの震災遺産 8/10~10/15
 ※もしもの時にできる事を考えておこう!
- 写真でみる関東大震災 8/26~12/17
 ※震災から100年の節目に振り返ろう。
- 山川鮎一会津藩家老山川家を支えた女性— 9/16~11/17
 ※山川浩や健次郎、捨松を育てたお母様はどんな人?
- 古代官道をゆく 9/30~11/26
 ※古代ふくしま人とふくしままで焼かれた古代の器、それぞれの旅路をたどります。
- 若松が大変! 城下町と災害 9/30~11/26
 ※「若松の大火」と呼ばれる、文久元年の火災の被害とは。

2023年 7月・8月・9月 イベントカレンダー

Curator diary

がけいん日記

ある日、出かける前に、I 学芸員が石さくいでいました。

目を守るコリガシ 化石を探している。

作業着の下 Yシャツ

大発見も日々の地道な作業から。学生見の日常。

日	月	火	水	木	金	土
						1
7	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
8	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28
	29	30	31			

日	月	火	水	木	金	土
						1
9	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31

休館日 ■ イベント開催日 ■

観覧料
 ■常設展観覧料 一般・大学生280円(20名以上の団体は220円)
 * 県民の日8/21、敬老の日9/18は、すべての方の常設展観覧料が無料です。
 ■企画展観覧料「仕事の仕事をしている仕事—福島のものづくりと民藝—」
 一般・大学生1,000円(800円)、()内は20名以上の団体料金。
 * 企画展チケットで常設展もご覧いただけます(企画展開催中有効)。
 * 高校生以下は常設展・企画展ともに無料です。
 ■年間パスポート 2,000円
 購入日から1年間、当館主催の企画展や常設展が何度でもご覧いただけます。

■JR会津若松駅から約3km
 ・タクシーで約10分
 ・まちなか周遊バス「ハイカラさん」で約20分(鶴ヶ城三の丸口下車すぐ)
 ・まちなか周遊バス「あかべえ」で約30分(鶴ヶ城三の丸口下車すぐ)

■車椅子使用者用駐車場
 ・博物館西側「鶴ヶ城三の丸」バス停そば:2台
 ・一般駐車場内博物館入り口側:3台
 ※ご不明の点はお問合せください。

Vol. 16 2023 7月~9月号



Vol. 16 2023 7月~9月号

なじよな

Vol. 16 2023 7月~9月号

なじよな

なじよな

なじよな

なじよな

なじよな

なじよな

なじよな

なじよな

なじよな

福島県立博物館

福島の歴史を語る

巨大スクリーンに広がる歴史の物語

夏の企画展

会期:7月15日(土)~9月24日(日)

会場:企画展示室
主催:福島県立博物館

Q1 なんだか不思議なタイトルの展覧会ですね?

A このタイトルは、陶芸家の河井寛次郎の言葉を使わせていただきました。色んな解釈ができそうな言葉ですが、私たちは作家がいのものを作ってやる、すごいものを作って驚かせてやるという気持ちでモノを作るのではなく、素材の声を耳を傾けて、それに沿ったものづくりをすることと解釈しています。そう考えると、有名作家か無名の一般人かを問わず、これは手仕事のものづくりに共通する感覚なのではないかと思っただけです。そんなところから、有名な作家の作品から何の変哲もない日常の道具までを展示する、今回の企画が出来上がりました。



ツギをあてた布の数々(当館蔵)

企画展「仕事の仕事をしている仕事ー福島のものづくりと民藝ー」は美術分野と民俗分野の合同企画。
協力して知恵を絞った塚本麻衣子学芸員(美術)と山口弘学芸員(民俗)に、詳しい話を聞いてみました!

仕事の仕事をしている仕事 福島のものづくりと民藝

Q2 近年、手仕事の文化が見直されているように思います。

A 柳宗悦は昭和15(1940)年前後に全国の手仕事の状況を調査し、それを『手仕事の日本』として昭和23年に出版しました。この時点で、すでに柳は手仕事の文化が衰退していることに危機感を覚えています。現代の日本では、手仕事の文化は更に危機的な状況だと思います。一方でそう感じる人が増えているからこそ、「民藝」や手仕事のものづくりが注目され、見直されているのではないのでしょうか。



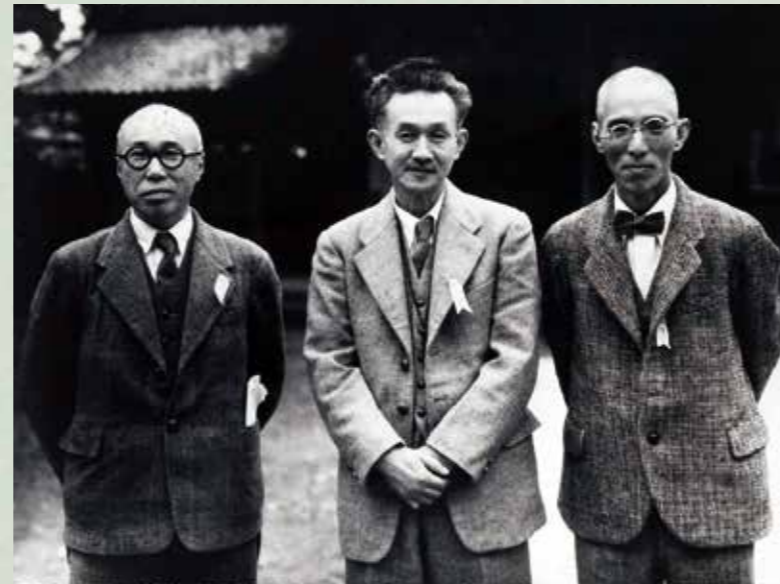
河井寛次郎「三色打楽蓋付壺」(日本民藝館蔵)



濱田庄司「赤絵蓋物」(日本民藝館蔵)

Q3 キーワードの一つである「民藝」についても教えてください。

A 「民藝」とは「民衆の工藝」の略で、柳宗悦という人物が中心になって作り出した言葉であり、概念です。柳たちは手仕事によって作られた日用品に「うつくしさ」を見出し、その価値を認めようと「民藝運動」を起こしました。このように日常生活の中にあるモノを評価するという視点はとても画期的なものでした。



民藝運動を牽引した三人(左から濱田庄司、柳宗悦、河井寛次郎) 画像提供:日本民藝館

Q4 モノのうつくしさを伝える「民藝」は今も人気ですね。

A ただ、モノの見方は一つではありません。博物館では民藝が対象にしたような日用品を「民具」というカテゴリーで収集しています。ここでは「うつくしさ」よりも「歴史資料としての価値」が重視されます。また、「うつくしさ」にしても、普通の作り手たちはどのくらい意識していたのでしょうか。「民藝」的なうつくしさではないかもしれないけれど、「これって楽しんで作ってるよね」と思われる資料もあります。「うつくしさ」も多様だと思います。今回の展覧会では様々な資料を通じて、「これって作り手もうつくしさを意識しているのかな?」「それとも観ている私たちが今の感覚でうつくしいと感じているだけなのかな?」という点を意識していただくようにしたいと考えています。「手仕事のうつくしさってなんだろう?」「ものづくりのよさってなんだろう?」ということを考えてながらご覧いただけたら嬉しいですね。



細巻 (当館蔵)

けんぱく中の人

川名義則館長

今回の「けんぱく中の人」は、令和5年4月より館長に就任した川名義則館長です。就任から2カ月という6月上旬、「なんだべや」でお話を伺いました。



Q1 博物館長に就任されて、けんぱくはどのように見えましたか。

改めて展示室を歩くと、福島の宝がいっぱいですよね。じっくり観ると、やっぱりおもしろい!充実した展示だと思えます。でも「中の人」になってみると、展示されている資料がほんの一部だということもわかりました。バックヤードには、10万点以上の資料が収蔵庫に収められていると思うと、おどろきましたね。

Q2 これまでに印象に残った出来事はありましたか。

まずは春の企画展「GO!GO!5世紀」ですね。担当の平澤学芸員の解説も聞かせていただいて、展示がよりおもしろくなりました。特に尻尾が丸まっている犬型埴輪(天王権古埴出土 本宮市歴史民俗資料館蔵)がお気に入り。これを作った人は、「どのくらい真剣に作ったのかなあ」とか「出来栄に満足してるのかなあ」とか、観ていると想像力をかきたてられますよ。

Q3 けんぱくでは様々なイベントも開催していますね。

そくて色々な人とのつながりができるのも大きいですよね。5月に「雪国ものづくりマルシェ」を開催しましたが、これは会津の本物のものづくり文化を体験できる素晴らしいイベントでした!「博物館でこんなこともやってみよう」というのを県民のみならず是非知ってもらいたいです。

Q4 けんぱくには色々なお客様がいらっしゃいますよね。

先日は幼稚園の園児たちが見学がありました。子どもたちと接していて、純粋に楽しかった!博物館を楽しんでいる元気な姿を見ると、はげまされる思いでした。親が子どもを博物館に誘っても、なかなか来てくれないと思うんです。でも、「今日幼稚園でけんぱくは行って楽しかった」って子どもが言ったら、親は「じゃあ、今度一緒に行こう」って思うんじゃないかな。そういう感じで、誰でも気軽に来れる博物館にしていきたいですね。

Q5 最後に、これからのけんぱくについて一言お願いします。

博物館って、日常から解放されて誰でもホッと一息ついて楽しめる場所だと思っただけで、学校でも職場でもない第三の場所(サードプレイス)として機能するようにしたい。そうやって集まった人達が、興味を持ったことを深堀りしている場になっていきたいですね。けんぱくは展示も充実しているし、イベントも盛り沢山、建物も立派だし、ロケーションもいい。絶対に自分のお気に入りの資料や場所が見つかるはずですよ。

テーマ展 後期展示から見所をピックアップ! 初公開作品もあります!

けんぱくの宝ー会津の絵画 寄贈作品を中心にー

会期:前期 ~7月17日(日・祝)/後期 7月19日(水)~8月27日(日)

会場:部門展示室 歴史・美術 *常設展料金でご覧いただけます

今回のテーマ展「けんぱくの宝」で初公開の作品の一つが小川芋銭の「虎溪三笑図」です。高僧の慧遠、詩人の陶淵明、道士の陸修静が話しに盛り上がりついでに越えなことのない虎溪を渡ってしまったという故事を描きます。ジャンルを超えて分かり合える仲間を語る故事で、多くの作品に描かれました。会津をたびたび訪れた日本画家小川芋銭が描くこの作品は、東洋思想を深く学び自然や民衆を愛した画家ならではの虎溪三笑図です。大正時代の美術愛好団体喜多方美術倶楽部の関係者ご子孫からご寄贈いただきました。



雪村周継筆「瀟湘八景図帖」のうち「山市晴嵐図」



小川芋銭「虎溪三笑図」

後期展示

前期展示
指定重要文化財

部門展示室 民俗が展示替え!おなじみ(?)の殿と南蛮先生が少しだけご紹介しします。



まず目に入るのが、展示室を覆う巨大スクリーン。会津の四季を映した映像や、学芸員による展示解説が流れます。二人の間にそびえ立つサイノカミが燃えるシーンは必見です!



部門展示室 民俗は「雪国の暮らしとものづくり」をテーマにした展示室です。ご覧いただいた後は、ぜひものづくりの現場を訪ねてみることをおすすめします。より一層会津を楽しむことができますよ。



雪国ならではの植物を利用して作られたザルやカゴ。春から秋にかけて材料を準備し、雪に閉ざされる冬の間にじっくりと手作業に取り組む。豊かな会津のものづくりを育んだのは、厳しい冬でもあったんです。



思わず手が伸びてしまいうような会津の伝統食。あなたはいつ知っていますか?観光で越えの皆さまは展示をご覧になった後、町中の飲食店で食すのも楽しいですよ。

冬の会津では必須の作業が雪下ろし。二人の頭上から、今にも雪が崩れ落ちそう!茅葺の屋根からは氷柱も垂れ下がっています。展示室では暗くて見にくいのですが、茅から出る氷柱は少し茶色くなるんですよ。

三の丸からプロジェクト
秋もやります!
雪国ものづくりマルシェ!

5/20(土)、5/21(日)に「雪国ものづくりマルシェ2023春」が開催されました。前日までは天気不安を感じていましたが、なんと2日間持ちこたえ、過去最多のお客様をお迎えすることができました。ご来場いただいた皆さま、ありがとうございました。



20日は「ほろ酔い宵マルシェ」と題して、夕暮れ時の前庭で会津の地酒とおいしい料理に舌鼓!翌21日は会津のものづくり文化を体験できるワークショップや、販売ブースが登場。思わず財布の紐が緩んでしまい、近隣のATMに走る方もチラホラ...?会津のものづくりを堪能していただいた二日間でした。

次回の「雪国ものづくりマルシェ2023秋」は9/16(土)、17(日)に開催です。出店者さんやワークショップの情報は、博物館ホームページや「雪国ものづくりマルシェ」公式Facebook、Instagramで随時ご紹介いたします。ぜひ楽しみにお待ちください!